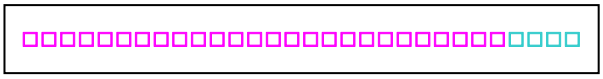
授業の具体的展開例

指導案はこちら！ CLICK

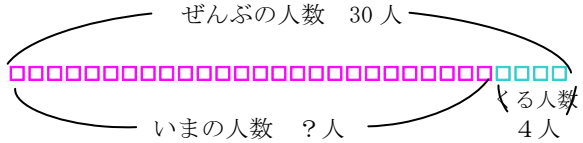
話合いによる集団解決

Ｔ：どんな図をかいて考えましたか。みんなに説明してみよう。

Ｃ：僕は、ブロックの図をかいて考えました。

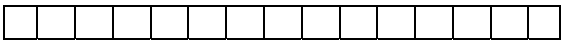


Ｃ：○○君のブロック図に付け足しをします。

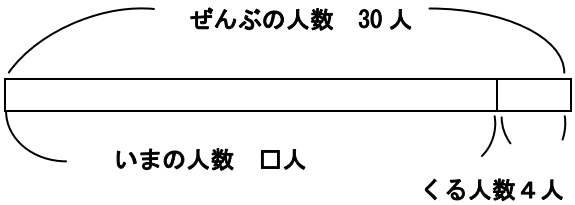


Ｔ：△△さんは、言葉を入れて分かりやすくしました。でも、ブロックを 30 個かくのはとっても大変だったね。ほかに方法はないかな？

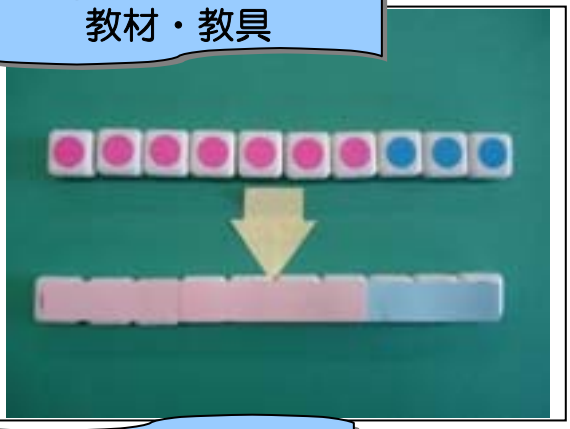
Ｃ：１個ずつ離さないで、ブロックをつなげたらいいと思います。



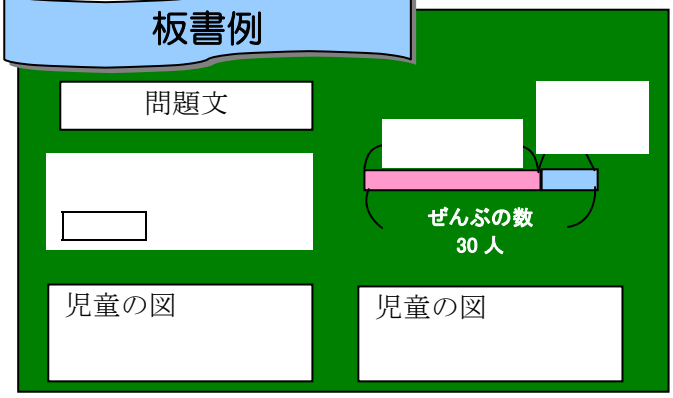
Ｔ：間の線を引かないで、テープのようにもかけます。これをテープ図といいます。みんなでかいてみましょう。



教材・教具



板書例



「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、前時で学習したブロック図を発展させて、テープ図をかいて問題を解く方法を学習する。ブロックの図に表せた児童には、問題文の数値や言葉を書き込んで数量関係がより分かりやすくなることをとらえさせる。ブロック図に言葉も書き込めている児童には、もっと簡単に図にする方法はないか考えさせることにより、テープ図の理解につなぐ。

集団解決の場では、児童一人一人の考えを交流していく中で、それぞれの考えのよさや、テープ図のよさに気付くことによって、より正確で簡単な図を導き出すようにする。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時では、自分の考えた図や式をノートに書いて、友達に分かりやすく説明することにポイントを置いている。また、友達の意見を聞いて、それぞれの工夫のよさや分かりやすい説明の仕方に気付かせることにより表現力を伸長させる。

「活用」の力を育てる視点から、具体的な児童の姿を類別すると次のように考えられる。

①自分の考えを、図・言葉や式を使って、分かりやすく書き、友達に説明することができる。
②自分の考えを、図・言葉や式を使って、書き、発表することができる。
③自分の考えをもち、発表することに課題がみられるが、友達の説明を聞き、理解することができる。
④友達の説明を聞いても理解できない。

③の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。④の児童には失敗を気にしないで自力解決し自分の考えを表現できるように支援する。②の状態の児童には、①の状態になるように他の児童の表現の工夫に気付かせるなど後半の話合いや適用問題の場面を充実させる。

さらに、学習のまとめでは、「書く」活動を設定し本時の自己の学習を振り返らせる。授業において新たに発見した、よりよい解き方や、参考になった友達の意見やよさなどを文章に表現することで、「活用」の力を一層育みたい。

児童のノート例

きのうは、ブロック図のかきかたがわかったけど、きょうは、（テープ図は、ブロック図よりはやくかけるし、いい。）とおもいました。

○○くんが、「ことばを入れたらわかりやすいで」と言ったから、ことばをいれました。そしたら、ほんとうにわかりやすかったです。

HOME　評価問題　本時の流れへ